

東広島市西条町寺家

福原 2 号遺跡見学資料



福原 2 号遺跡空中写真（東から）

平成 2 5 年 1 1 月 9 日（土）

公益財団法人広島県教育事業団

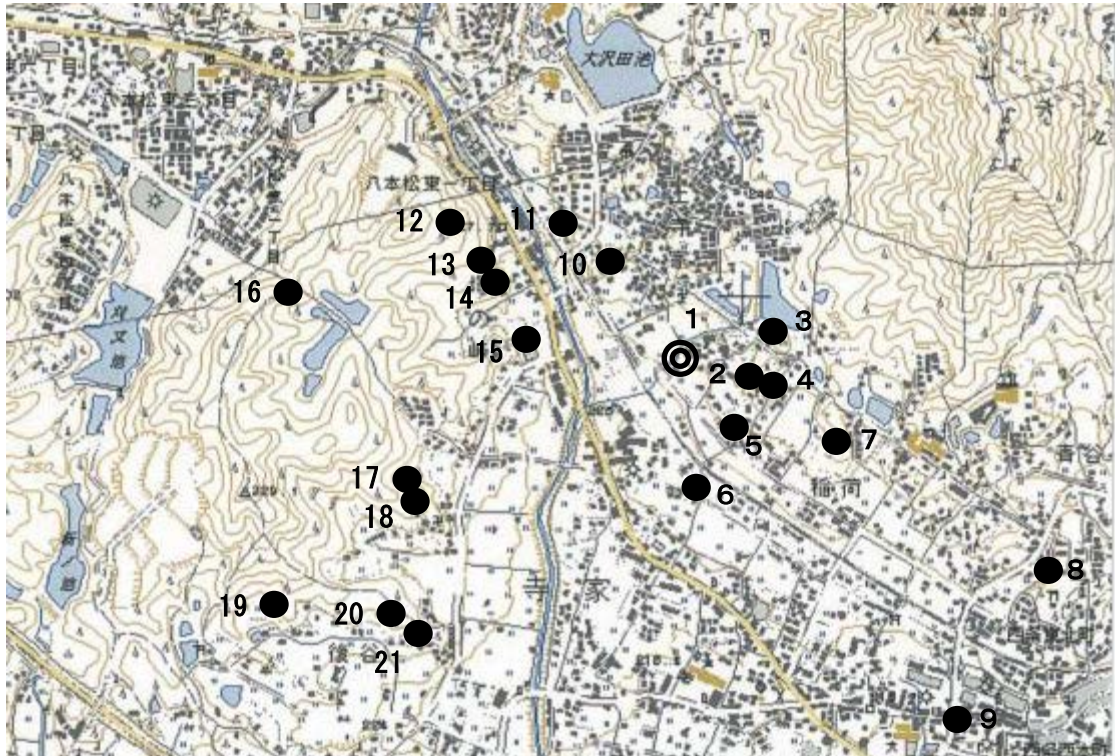
東 広 島 市 教 育 委 員 会

1 位置と環境

福原2・3号遺跡は、西条盆地の北部、龍王山（標高575m）から南西方向に延びる低丘陵の先端部に立地しています。調査前は水田・宅地で、遺跡から西側には黒瀬川が南東に向かって流れています。本遺跡の標高は228～233mで、黒瀬川周辺の水田とは5～8mの比高差があります。

遺跡が位置する西条町寺家地区では、湯谷迫遺跡（弥生時代・中世，集落跡），円能寺跡（中世，寺院跡）など、多くの遺跡が確認されています。

本遺跡から谷を挟んだ東の低丘陵には平成20年に発掘調査が行われた横田1号遺跡（弥生時代～古墳時代，集落跡）があり、竪穴住居跡・掘立柱建物跡が確認されています。遺物は土器以外に、再加工された細形銅剣の破片・ガラス製の管玉・小玉が出土しています。



第1図 周辺遺跡分布図（1：25,000）

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1 福原2・3号遺跡 | 2 円能寺跡 | 3 湯谷迫古墓 | 4 湯谷迫遺跡 |
| 5 福原南遺跡 | 6 貞松遺跡 | 7 横田1号遺跡 | 8 諏訪神社周辺遺跡 |
| 9 小西遺跡 | 10 狐川1号遺跡 | 11 平岩古墓 | 12 塚ヶ峠第2号古墳 |
| 13 塚ヶ峠第1号古墳 | 14 塚ヶ峠第2号古墓 | 15 塚ヶ峠第1号古墓 | 16 飢坂第1号古墳 |
| 17 平泰寺古墳 | 18 平泰寺古墓群 | 19 瑞光寺跡 | 20 法花寺古墓群 |
| 21 法花寺跡 | | | |

2 調査の概要

発掘調査は福原2号遺跡(3,600㎡)の調査を現在まで行っており、福原3号遺跡(1,200㎡)の調査を終了しました。

福原2号遺跡と3号遺跡との間には、東広島市教育委員会の試掘調査によって小さな谷(旧地形)が確認されており、この谷を挟んで東側が2号遺跡、西側が3号遺跡です。

福原2号遺跡 調査の結果、掘立柱建物跡2棟・埋甕13基・埋桶7基・土坑15基・溝状遺構26条・性格不明の落ち込み9を確認し、古墳時代と中・近世を中心にした集落遺跡であることが分かりました。調査区は旧水田の高低差により上・中・下の3段に分かれ、調査区の南東部にあたる上段から、古墳時代前半頃と考えられる掘立柱建物跡(SB1)と柱並びが不明瞭な柱穴を確認しています。SB1の規模は3間×2間以上の総柱構造の建物で、調査区外の北東方向に柱穴が延びていると考えられます。

中段は掘立柱建物跡(SB1)が立地している尾根の南側と西側を削り、削った土で整地を行っています。土坑や柱穴などを確認した面が3面あります。最も新しい第1面は調査区の北東側で溝(SD1・2)や柱穴群、東側で埋桶や埋甕が見つっています。SX5は焼土と炭化物の広がりが見られた地点で、焼土と炭化物を除去すると浅い土坑・柱穴と溝状遺構を確認しています。第2面は第1面の下層から、幅約14m、長さ約20m、深さ約0.5mの範囲で溝(SD3~7)と柱穴を確認しています。溝状遺構の性格は不明で、現在検討中です。第3面は調査区西側で、第1面の整地土を除去した後に遺構を確認しました。主な遺構は柱穴などを含む小土坑で、遺構の埋土がSB1と同じものがあり、古墳時代前半頃の遺構も含まれていると考えられます。

下段は東広島市教育委員会の試掘調査で溝状遺構が1条確認されている地点です。溝状遺構以外には明確な遺構は無く、また、下層の遺構確認のため、トレンチを5本設定して掘り下げを行いました。No1からNo4のトレンチの西側は、福原3号遺跡1区-2区で確認した東側の谷地形に対応する傾斜が確認できました。



SB1掘り下げ作業

埋桶と埋甕群



福原3号遺跡 調査区の西側（2区）は低丘陵尾根の平坦面、東側は浅谷に向かってゆるやかな斜面となっています。西側の平坦面から、掘立柱建物跡1棟、土坑9基、溝状遺構4条、性格不明の遺構2、柱穴群を確認しました。主に中世の遺構であり、古墳時代の遺構（SD4）や近世の遺構（SD2・SX1）も含まれています。

掘立柱建物跡（SB1）の規模は1間（1.7m）×1間（3.4m）です。柱穴の径は31～47cm、深さは27～43cmです。この内、3個の柱穴の埋土から、土師質土器片が出土しています。柱穴の形状などから、柱材の径は10～15cm程度であったと考えられます。

土坑（SK1）の規模は径2.3cm、深さ28cmで、底面は一部二段に掘られています。主な出土遺物は土師質土器片で、他の小規模な土坑（SK2～9）の多くからも土師質土器片が出土していますが、何れも性格は不明です。

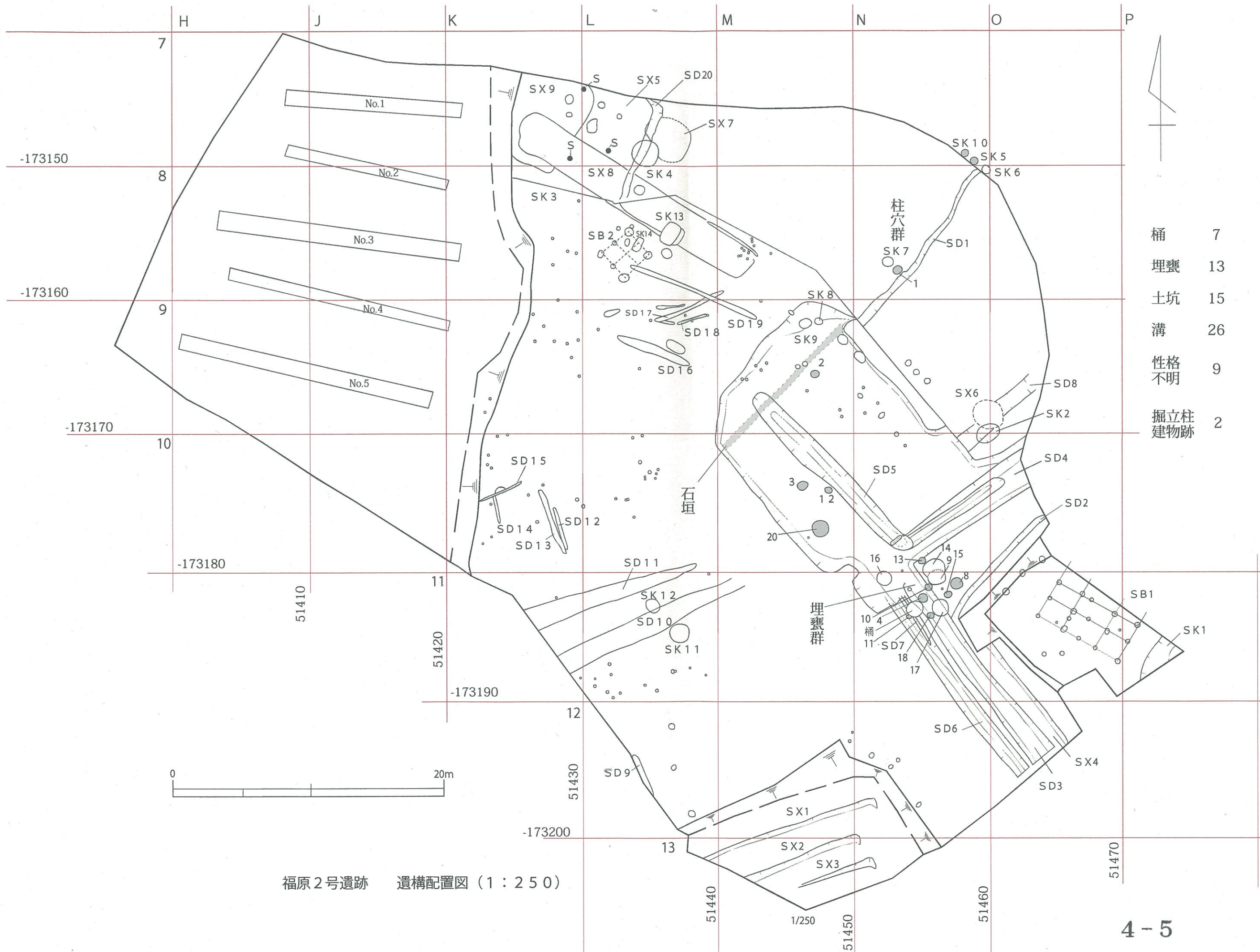
中世や近世の溝状遺構（SD1～3）は、いずれも水が流れた痕跡がないことから、土地の区画として利用されていたと思われます。比較的大きな溝状遺構（SD3）の埋土からは土師質土器片が出土しています。SD3と並んでいる性格不明の遺構（SX2）は、SD3と出土遺物や土質、平坦な底面の形状など類似する点が多く、同時期に使用されていた可能性が考えられます。古墳時代の溝状遺構（SD4）は、調査区東半で確認した遺物包含層を掘り込んでおり、土師器片や須恵器片のほか、弥生土器片や加工痕のある木片も出土しています。遺物包含層からは、縄文時代から近世の土器片（縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、須恵器、陶磁器）、縄文時代や弥生時代前期の石鏃、加工痕のある木片などが出土しています。



調査区全景（北東から）

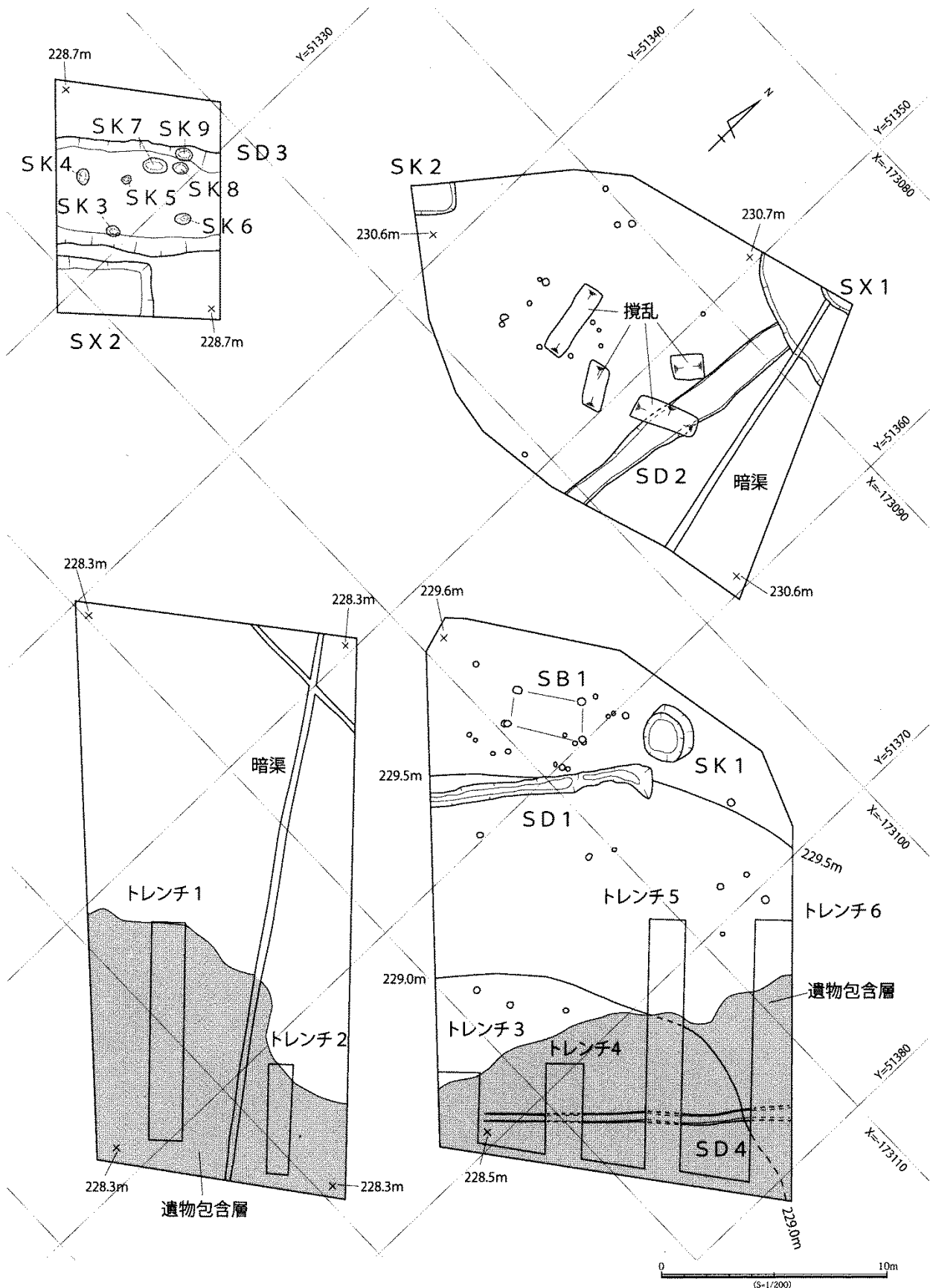


包含層の調査風景



桶	7
埋甕	13
土坑	15
溝	26
性格不明	9
掘立柱建物跡	2

福原2号遺跡 遺構配置図 (1:250)



福原 3号遺跡 遺構配置図 (1:250)

3 まとめ

今回の調査によって、福原2・3号遺跡は中・近世を中心にした集落遺跡であることがわかりました。福原2号遺跡の埋桶や埋甕は2列に並んだ状態であることから、一般的な集落ではなく、何らかの製造か貯水用として使用されていた可能性が考えられます。また、長方形の平坦面の中の溝については、今後、類例の調査や詳細な検討によって性格を考えていく予定です。福原3号遺跡の包含層からは縄文時代から近世の土器片が出土しており、この地で長く続いた人々の営みを感じることができます。遺物は弥生時代中期の土器も多く、近くに集落が存在している可能性が高く、遺物の中には「分銅形土製品」も3片含まれています。また、瓦器の椀片は畿内で製作された可能性が考えられ、畿内との関係が窺うことができます。

メモ